

銚子ジオパーク市民の会 ニュース

第138号

2026年4月23日発行

発行責任者 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL : <https://choshigeopark.com>



屏風ヶ浦 (銚子市)

銚子ジオパークの森

謎解きウォーキング

「地元の森の魅力に触れる一日」



文化財・ジオパーク室

上田 脩郎

3月28日(土)、「銚子ジオパークの森謎解きウォーキング」を開催しました。クイズを解きながら森や海辺を歩き、

楽しみながら銚子の自然に親しんでもらおうという催しです。ウォーキングコースは、銚子ジオパークの森(君ヶ浜国有林)と犬吠埼周辺です。銚子市内の親子連れを中心に、74人が参加しました。

事前に市民の会メンバーと下見を行い、設問の内容や設置場所を相談した結果、今年は、松くい虫対策で伐採した木の年輪を数える問題など、森の変化や保全について考えられる設問も盛り込みました。早朝に雨が降りましたが、受付が始まる頃には青空が広がり、散策にぴったりの天気と

なりました。参加者からは「銚子にこんな自然豊かな森があるとは知らなかった」といった声も聞かれ、身近な自然の魅力を改めて感じてもらえる一日となりました。

当日は参加賞として、お菓子の工房ダイモンで販売している「銚子ジオパーク菓子」を配りました。地域の自然を知り、親しむきっかけとして、今後も続けていきたい催しです。市民の会の皆さんの協力に支えられた、あたたかなイベントとなりました。

毎日新聞の市民の意識調査によりますと、「今、最も不安に思うことは何か?」の問いに「老後の生活」「自分や家族の健康」に続く三番目15%の方が「地震などの災害」をあげ

地球温暖からの脱出を目指して ゲータラ隠居

2025年の「新語・流行語大賞」の6番目には「二季」が選ばれています。これは近年の季節の変化がまるで「日本の四季が、春と秋が無くなり、夏と冬の二つの季節になってしまふ」ように思われている方々の反映なんでしょう。

一方で、夏(2025~26年)は、記録的な大雪や強い冷え込みによる被害が相次ぎ、積雪が平年の倍以上となった地域もあり、除雪時の事故が多発し死者も出ており、厳しい冷え込みで水道管破裂など、市民生活に大きな影響が生じました。

温暖化が進む中で、なぜ記録的な大雪が起ころるのでしよう? 冬日(最低気温が0℃未満の日)が減り、日本海側など多雪地帯の積雪の深さは減少傾向にあります。しかし、平均的な降雪量が減る一方、北海道の内陸や本州の山間部など一部の地域では、短時間に積雪が急増する「下力雪」が増える傾向にあります。その主な原因は、地球の温暖化が進んでも気候が、0℃以下であれば雨ではなく雪が降ることです。

(次頁に続く)

